



《診療の質》 脳梗塞の早期リハビリテーション実施率

<項目解説>

脳梗塞患者へのリハビリテーション早期実施は有効です。意識がなくICU(集中治療室)内にいるような状況においても、適切にリハビリテーションを施行することで、意識回復後の機能改善の可能性があります。適切なリハビリテーションの開始により、入院期間の短縮やQOLの改善にもつながります。本指標は、より適切な医療介入を評価するものです。

<当院の実績>

【平成24年度】	85.7% (7症例)
【平成25年度】	50.0% (10症例)
【平成26年度】	53.1% (17症例)

<当院の自己点検評価>

脳梗塞のリハビリの主な目的は、「脳梗塞の再発防止」および「日常生活における機能障害や能力低下からの回復を目指して、生活の質の向上と維持をはかる」ことにあります。

脳梗塞の再発防止のためには、脳に血栓ができるのを防ぐ投薬治療や、動脈硬化・高血圧・糖尿病などのいわゆる生活習慣病の危険因子を遠ざけるための、生活習慣の確立が必要です。

その改善のため、食事療法の実践と同じくらいに効果的で欠かせない「リハビリを通じた適度な運動」による機能回復と向上を今後も目指して参ります。

<定義>

脳梗塞の早期リハビリテーション実施率

脳梗塞は新鮮例（発症して間もない状態）に限定します。3日以内退院と転帰が死亡である場合は除き、再梗塞は含みます。

<算式>

分子:入院4日以内にリハビリテーションが開始された患者数。

分母:最も医療資源を投入した病名が脳梗塞の患者数、緊急入院に限る。